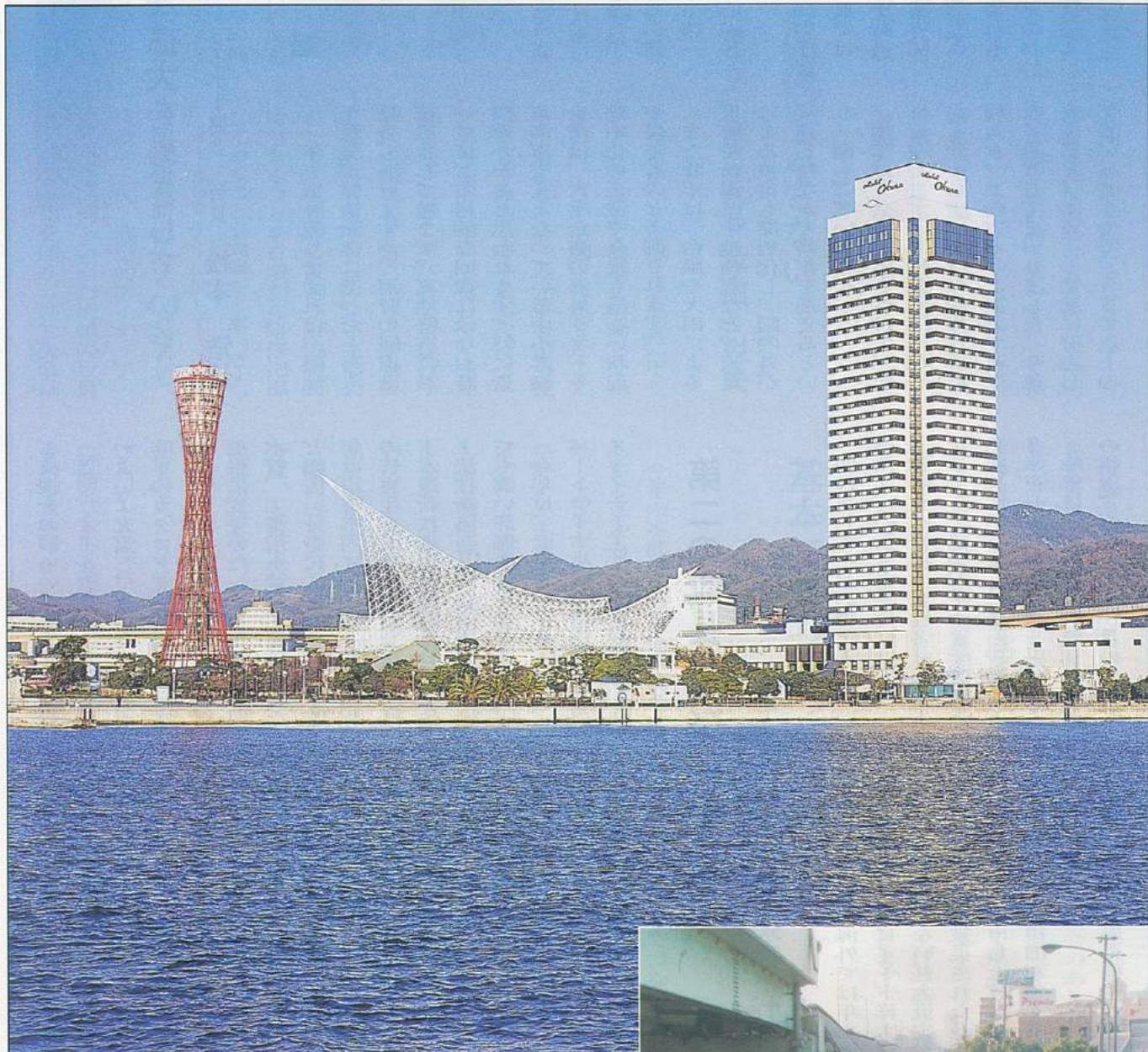


ALL LINER® news



ALL LINER® ASSOCIATION

2005.2.25 VOL.14 (新春号)



CONTENTS

役員年頭の挨拶	2~6 ページ
寄稿：新潟県中越地震の災害復旧活動	7
技術情報：φ1500 オールライナー施工	8~9
技術管理者試験（平成16年度）合格者	10
統括監理者試験（平成15、16年度）合格者	10
統括監理者・施工技術管理者研修・試験	11
支部だより	12~13
青年部活動報告	13
平成17年度海外研修のご案内	14
会員名簿	15



(上) みなと神戸の発祥地とも言えるメリケンパーク。
震災から10年を経た今も神戸を代表する風景だ
(下) 震災直後の神戸のようす(灘区・岩屋高架橋)

役員年頭の挨拶

オールライナー協会 会長 松本 浩治



さらなる受注拡大をめざしていく

新年明けまして、おめでとうございます。

協会員の皆様におかれましては、ますますご健勝にて、輝かしい新歩を踏み出された事を心からお慶び申し上げます。

当協会も昨年は協会設立10周年の節目の年でした。記念式典ではノーベル物理学賞受賞者「小柴昌俊先生」のご講演を頂き、業界関係者並びに会員の多数の参加者で、会場は一杯になりました。これもひとえに会員並びに関係諸兄のお陰だと感謝の気持ちで一杯です。

一年を振り返りますれば、堅調な景気が経済全体に漂つたと言ふ見方もありますが、消費の回復は依然として進まず、実態経済においては、本格的な回復にはなお時間がかかると思われます。特に景気の下支えとなっている中小零細企業は、大手企業の海外シフトや効率化の余波で今後も厳しい状況が続くものと予測されます。

また昨年は、台風や大雨による災害や新潟県中越地震など、天災による被害も深刻化し、国内外が混迷したなかで新年を迎えるとい一面もございました。

本年は、会長を引き受けて三年目を迎えます。これまで、右も左も分からず、会員の皆様、事務局スタッフの方々のご協力で少なく過ごしてまいりました。今後も会員とメーカーの発展に努力しませんので、今まで以上の

水管、工業用水管、工場排水管など幅広い分野に広がりました。昨年は、サイドライナー工法、下水道新技術推進機構と管渠更生工法技術協会との共同研究においても高い評価を得ております。

今年は、サイドライナー工法、スライナー工法の認証取得と工法

ご支援をお願いいたします。
さて、オールライナー工法も、いよいよ充実してまいりました。
昨年のカタログ変更時より、下水道専門から配水、送水、全般の管道専門において一五〇〇mm管更生も成功しております。(財)

年は川崎市内において一五〇〇mm管更生も成功しております。(財)下水道新技術推進機構と管渠更生工法技術協会との共同研究においては、本格的な回復にはなお時間がかかると思われます。特に景気の下支えとなっている中小零細企業は、大手企業の海外シフトや効率化の余波で今後も厳しい状況が続くものと予測されます。

また、ホームページの活用をさ

らりいたします。ホームページの掲示板は会員相互の連絡に利用できるものです。ご意見、ご指導何でも結構ですので、お寄せ下さい。

最後になりますが、会員各位のさらなる発展とご多幸を祈念いたしまして、挨拶とさせて頂きます。

さて、オールライナー工法も、いよいよ充実してまいります。特に景気の下支えとなっている中小零細企業は、大手企業の海外シフトや効率化の余波で今後も厳しい状況が続くものと予測されます。

また、ホームページの活用をさ

らりいたします。ホームページの掲示板は会員相互の連絡に利用できるものです。ご意見、ご指導何でも結構ですので、お寄せ下さい。

最後になりますが、会員各位のさらなる発展とご多幸を祈念いたしまして、挨拶とさせて頂きます。

第二の成長をめざして

副会長 九州支部長 永野 刀男

明けまして、おめでとうござい

ます。

本年も、皆様方会員各社とオールライナー協会がますます成長・発展していくよう、また皆様の方々にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧を強く望みます。

昨年は、国内では台風18号など

の相次ぐ台風上陸や10月の新潟県

中越地震、さらに海外では年末のスマトラ沖大地震にインド洋大津波という、近年にない甚大災害続発の一年でした。被災された多くの方々にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧を強く望みます。

さて、昨年は政府の構造改革の

のPR、積算資料の早期改訂、各支部で施工技術の講習会を進め、「三位一体の改革」への取り組みもあり、下水道事業費は大変厳しいものとなりました。平成17年度も国から地方への補助金がさらに削減されるなど、この状況が続くものと思われます。このような厳しい事業環境のなかで、オールライナー協会が勝ち残っていくには、これまで難しかった条件でも施工を可能にする新工法や新材料を開発したり、従来からの保有技術の効率をさらに上げるため、会員の皆様の地道な努力により新しいアイデアを創出することがきわめて重要なと考えます。

昨年に技術審査証明を取得したオールライナー工法は、引込み工法だけでなく、条件によっては反転工法も使って対応できるようになりましたことから、九州地区で昨年行つたデモ施工では事業体のみならず会員の皆様も大きな期待を寄せていました。また九州地区においては、施工実績では15年度の本管施工実績は7・5km、会員数も順調に増え、15、16年度は、これまで未入会であった大分県や宮崎県から新人会員が生まれたことも

同じ失敗は一度繰り返さない

副会長 関東支部長 平田 悅夫

理事

関西支部長 今中 健司

者である市民への説明不足も相まって、予算化への道筋が付けていい苦勞もあるようです。

そこで現在はマスコミ等の協力を得て、消費者団体代表や学識経験者、一般市民を交えて公の座談会や討論会を開催し、下水道管の老朽化・危険度ハザードマップ公開などを求める活動がなされています。参加自治体関係者の評価も高いようです。今後とも継続して下水道管路の実態を広く世間に知つて頂く機会をより多く捉えて、われ業者も積極参加すべきと考えます。下水道管路老朽化の実態は大阪市に限らず、周辺都市の事情も大差ありません。

関係者相互の協力を得て、各方面に下水道管路管理の重要性を訴える、基本に立ち返つての活動を優先することが我われの事業を発展させる近道ではないか――。新年にあたり、新たな決意としてお

あり、16年度は目標の10kmの達成に向け実績拡大が見込めると考えています。

昨年の設立10周年を一つの区切りとするならば、今年はオールライナー協会が地盤をより強固にし、着実にシェアを伸ばす「第二の成長

による被災も深刻化し、国内外が混迷したなかで新年を迎えるという一面もございました。

本年は、会長を引き受けて三年目を迎えます。これまで、右も左も分からず、会員の皆様、事務局スタッフの方々のご協力で少なく過ごしてまいりました。今後も会員とメーカーの発展に努力してまいりますので、今まで以上の

二度繰り返さない」を合言葉に、各委員会で営業から施工までを取上げていただきたいと思います。

各自が一層の自己研鑽を求められてくるとともに、会員相互が知恵を出し合い、この苦境を乗り切つていかねばなりません。私といた

る見附市へ下水道二次調査にボランティアとして参加し活動してきました。この活動中に感じたことを小冊にまとめ、地元平塚市へ提言として陳情してきました。

災害復旧の担当手として、地元協会員の皆様の果たす役割を都民、市民に認識してもらうことが必要と思われます。オールライナー協会として、災害時の役割など協会員ができることを日頃から研修把握しておくことも大事かと思います。

オールライナーに関して言えば、技術情報の開示には一段と努力し、技術的工夫・機器的アイディア、施工的成功例といった情報の会員間での共有化を図り、「同じ失敗は

しなければ、関西近郊にも活気が出ません。ところが本来の役割どころか、今頃は、所内の不祥事(時間外不正受給等)をマスクミにやつてガタガタと報道され、詐欺

(3) 平成17年2月25日発行 オールライナーニュース 平成17年2月25日発行 (2)

新年明けましておめでとうございます。皆様方に、ご健勝にて新春を迎えたこと、お慶び申し上げます。また旧年中は、協会・支部の活動につきまして、ご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。昨年は、台風の上陸が10本、なうございました。それでも22号・23号の被害は甚大で、新潟県中越地震が起き、自然災害が日本列島を襲いました。年の最後12月26日には、インドネシア・スマトラ沖大地震による大津波が発生し、未曾有の大災害となつています。私も弊社職員ともども、新潟県中越地震による被災地である

今年の本部総会開催地が関西であることから、原稿依頼が来ました。この手が私の一番苦手な分野。格好よく主張するテーマもなければ、飾った表現も自分らしくない。しかし関西はいま絶不調で仕事も少ない。今後の見通しも定かでない。したがって、本文も愚痴から始まること、お許し願います。

関西の不況の、その根源の大部

分は、大阪市にあると思います。大阪市らしく、本来の役割を全くしなければ、関西近郊にも活気が出ません。ところが本来の役割どころか、今頃は、所内の不祥事(時間外不正受給等)をマスクミにやつてガタガタと報道され、詐欺



寄 稿

新潟県中越地震の災害復旧活動について

長谷川 健司

(管清工業株 代表取締役社長)

新潟県中越地震の災害復旧に関する調査等における機材や人力の報告は数多くあると思うので、ここでは支援のソフト面に関する今後への課題を検討したい。

95年1月17日に発生した阪神・淡路大震災では多くの犠牲者を出したことは記憶に新しい。しかし、今は福井県をはじめ全国で台風による水害が発生し、その復旧も多くの人間や機械等の支援が必要であった。この災害で学んだこと

は、多くのボランティアが全國から集まり被災者を支援したことである。

下水道の分野は、いかがであったのか確認してみよう。

阪神・淡路大震災の後、(社)日本下水道協会が中心となり、全国の支援体制を構築し、毎年シミュレーションを行なっていた。今回の震災発生に対しても、福島県が支援担当幹事県となり進められた。

(社)日本下水道管路管理業協会(以下、管路協)では、新潟県は中部支部であり、支援支部が二カ所になる事態が発生してしまった。しかし、管路協の東北支部は新潟県部会の動きを見て、新潟県の災害対策本部の指示で支援活動を行つ

た。組織として、いち早く支援活動に入ったのは東北支部であり、最後まで支援を続けてくれた。

ここで反省する点は、管路協の本部が阪神・淡路大震災のときと同様に現地の新潟県部会と共に管路協の現地対策本部を立ち上げるべきであったということがある。

しかし、以前の教訓が生かされず、県部会に任せっきりであったことには残念である。現地の支援協力会社や現場は混乱しているので、本部の支援は必要であったと思う。この支援体制がなかったことが、その後多くの問題を引き起こしたものも事実である。95年の震災時と現在の管路協本部の体制が違うべきであったということがある。

新潟県部会、東北支部、中部支部、管路協本部および全国の自治体等が絡む支援活動となつた。これも現地対策本部があれば一本化されたと思われる。国土交通省も新潟県と被災市町村とで下水道調査をいち早く進めるよう関係各所に要請したが、初期の反応が良くなかつたこともあり、下水道は比較的後回し的な存在であった。水道が復旧すると下水道が溢水するのではないかと懸念されたが、管路協の初動も、国土交通省の期待に応え得る状況ではなかった。県部会では荷が重すぎたのではないだろう

た。組織として、いち早く支援活動に入つたのは東北支部であり、最後まで支援を続けてくれた。

ここで反省する点は、管路協の本部が阪神・淡路大震災のときと同様に現地の新潟県部会と共に管路協の現地対策本部を立ち上げるべきであったということがある。

しかし、以前の教訓が生かせなかつた原因の一つであると言える。

新潟県部会、東北支部、中部支部、管路協本部および全国の自治体等が絡む支援活動となつた。これも現地対策本部があれば一本化されたと思われる。国土交通省も新潟県と被災市町村とで下水道調査をいち早く進めるよう関係各所に要請したが、初期の反応が良くなかつたこともあり、下水道は比較的後回し的な存在であった。水道が復旧すると下水道が溢水するのではないかと懸念されたが、管路協の初動も、国土交通省の期待に応え得る状況ではなかった。県部会では荷が重すぎたのではないだろう

た。組織として、いち早く支援活動に入つたのは東北支部であり、最後まで支援を続けてくれた。

ここで反省する点は、管路協の本部が阪神・淡路大震災のときと同様に現地の新潟県部会と共に管路協の現地対策本部を立ち上げるべきであったということがある。

しかし、以前の教訓が生かせなかつた原因の一つであると言える。

ここでの反省は、支援を要請するときに、どこの地域や団体からTV調査班や清掃班を何班出動できるかではなく、要請は「何班出勤ください」と具体的な数字を示すべきであったと思う。また、支援活動を行う会員がそのとき抱えていた仕事を中断しても支援に行けるように、管路協として各自治体へ仕事の中止や工期の延長等のお願いを管路協の公文として提出するべきであった。工期を守りかつ災害支援に行くには、余裕がないとできないことである。阪神・淡路大震災のとき、ある自治体が支援活動に行く企業に対し支援は支援で工期は「工期」と発言している。この教訓が生かされているのか、これも疑問である。

また、今回大きな問題となつたのは、調査費用である。調査費用が支援に行く前から1m当たり一五七円と提示されていた。新潟県と管路協会員が見積もりを提出したと聞いたが、大変残念なことである。震災の支援では、どの程度の費用がかかるかは行ってからでないと分らない。交通状況や被災の状況により日進量は大きく変動することは、災害支援の経験があれば理解できることである。また、災害の支援はボランティアべ

うございます。

昨年は、度重なる台風による水害、新潟県中越地震、大津波など悲しい出来事が多くありました。一方喜ばしい出来事も多くありました。オリエンピックの金メダルラッシュ、イチローの新記録達成などで、当協会でも昨年6月11日の設立10周年記念総会が柴先生の記念講演とともに大成功裏に終了し、記憶に残ることになりました。

さて、オールライナー工法は施工実績で年毎に着実に増加し、02年度には業界第2位となり、ナンバーワンを目指し確実に施工距離を伸ばしてきています。これもひとえに協会員の皆様のご努力の結果であり、材料供給会社として皆様に心より御礼申し上げます。

すでにご承知のとおり、旭テック株は03年初夏に大株主が変わりました。経営の方針も「顧客満足」がさらに強く打ち出され、「品質」「納期」「価格」「サービス」で、会

皆様、新年明けましておめでとうございます。

昨年は、度重なる台風による水害、新潟県中越地震、大津波など悲しい出来事が多くありました。

一方喜ばしい出来事も多くありました。オリエンピックの金メダルラッシュ、イチローの新記録達成などで、当協会でも昨年6月11日の設立10周年記念総会が柴先生の記念講演とともに大成功裏に終了し、記憶に残ることになりました。

員の皆様にさらにご満足いただけた。本年はさらに皆様のご要望にお応えできるように研鑽を重ねてまいります。

管更生材料の製造工場は現在国内一ヵ所のみですが、製造出荷距離がさらに増大すれば、複数の工場での製造、出荷の構想も待つております。会員の皆様のご支援でぜひこれを実現したいと考えております。

管更生事業は全体として着実な拡大が見込めるものの、工法間では淘汰の時代に突入しています。

オールライナーがこの戦いに勝ち残っていくためには、会員の皆様・協会・材料供給会社が一体となってお客様に良いものを、速く、安く、安全に提供し、一層の信頼を勝ち得ること”がキーポイントです。

テック株は材料供給会社として皆様とともに歩む所存です。

本年も、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

旭テック株 執行役 三谷 久夫

製造工場の複数化実現に向けて 一層の信頼を勝ち得ていく

向上・発展に向けて
行動する年に

事務局長 中根 憲一

していただく観点からも、強力に推し進めて行きたいと考えています。さらに、他の協会には存在しない青年部の活動を支援して行きます。

新年明けましておめでとうございます。協会員の皆様には、輝か縮減に注力し、ユーザーの期待に応えた。本年はさらに皆様のご要望に嬉しい新年をお迎えのこととお慶び申します。

管更生材料の製造工場は現在国内一ヵ所のみですが、製造出荷距離がさらに増大すれば、複数の工場での製造、出荷の構想も待つております。会員の皆様のご支援でぜひこれを実現したいと考えております。

管更生事業は全体として着実な拡大が見込めるものの、工法間では淘汰の時代に突入しています。

オールライナーがこの戦いに勝ち残っていくためには、会員の皆様・協会・材料供給会社が一体となってお客様に良いものを、速く、安く、安全に提供し、一層の信頼を勝ち得ること”がキーポイントです。

テック株は材料供給会社として皆様とともに歩む所存です。

本年も、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、オールライナー工法は施工実績で年毎に着実に増加し、02年度には業界第2位となり、ナンバーワンを目指し確実に施工距離を伸ばしてきています。これもひとえに協会員の皆様のご努力の結果であり、材料供給会社として皆様に心より御礼申し上げます。

すでにご承知のとおり、旭テック株は03年初夏に大株主が変わりました。経営の方針も「顧客満足」がさらに強く打ち出され、「品質」「納期」「価格」「サービス」で、会

員の皆様にさらにご満足いただけた。本年はさらに皆様のご要望にお応えできるように研鑽を重ねてまいります。

管更生材料の製造工場は現在国内一ヵ所のみですが、製造出荷距離がさらに増大すれば、複数の工場での製造、出荷の構想も待つております。会員の皆様のご支援でぜひこれを実現したいと考えております。

管更生事業は全体として着実な拡大が見込めるものの、工法間では淘汰の時代に突入しています。

オールライナーがこの戦いに勝ち残っていくためには、会員の皆様・協会・材料供給会社が一体となってお客様に良いものを、速く、安く、安全に提供し、一層の信頼を勝ち得ること”がキーポイントです。

テック株は材料供給会社として皆様とともに歩む所存です。

本年も、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

さて、オールライナー工法は施工実績で年毎に着実に増加し、02年度には業界第2位となり、ナンバーワンを目指し確実に施工距離を伸ばしてきています。これもひとえに協会員の

Ø 一五〇〇オールライナー施工について

技術副委員長
高田 淳
技術副委員長
小川 隆弘

効果は絶大で、管路勾配の兼ね合いで水流が生じやすい工区では、ワインチで引かなくても、水の力のみでライナーが動いてしまうほどの効果がありました。

また、特筆すべきは、動滑車を経由してワイヤーの巻き取りを行って、最大重量五十五tのライナーを一〇〇Vワインチで引き込んだことです。

1 はじめに

04年11月29日から12月18日までのおよそ三週間に渡って、オールライナー工法として過去最大規模となるØ1500オールライナーの施工が行われました。

Ø1径ライニングでは、ライナのサイズが大きいことにより、通常では問題に到らない現象が顕著になることが多く、小中Ø径ライニング以上に入念な準備を進める必要がありました。

このため、管清工業株と旭テック株は、実施工で起こりうる問題とその対策について、過去の同様の施工事例（03年度の北九州Ø1200×Ø100m施工）などを参考にしながら、事前に打ち合わせを重ね、模擬管路による試験施工を経て本番に臨みました。

本報では、これまでの大Ø径ラ

イニシエーションの経験を含め、本件で取り組んだ課題等とその対策等について紹介します。

2 施工概要

○施工条件
既設管Ø1500ヒューム管
用途…冷却排水管
全四工区の総延長…三四〇m

最長スパン…九五m
人孔…斜壁撤去、人孔深三m
人孔内径二三〇〇

○施工場所
川崎市川崎区扇町
○施工者
管清工業株

○ライナー仕様
Ø1500×t
最大長さ一〇四m
最大重量二五t

2・1 引き込み
ライナーの引き込みは、まず引き込みテンションを低減するための水張りを管内に行なったうえ、ライナーを用いて上流人孔よりライナーを導入し、続いて到達人孔よりも下流側管内に設置した一〇〇Vウインチでライナーを引き取る方法が採られました。

以下に本件の施工事例を紹介します。

水張りによるテンションの低減

2・2 注水

注水、拡径 加熱の各工程は三日に分けて行われ、冷却については温水が満たされた状態のライナーを自然放冷する形態が採られました。

以下に本件の施工事例を紹介します。

2・2 注水

本件では一工区当たりの注水量として平均一五〇m³の水が必要とされたため、計画的に水を確保することが重要となりました。

水を確保する手段として、初回水張りによるテンションの低減

2・3 拡径・加熱

拡径方式は大Ø径ライニングでは一般的なオーブン加圧が適用され、水頭の管理は三～四mの範囲で行われました。

ライナーの加熱は、昇温時間を短縮するため、三台のボイラー車

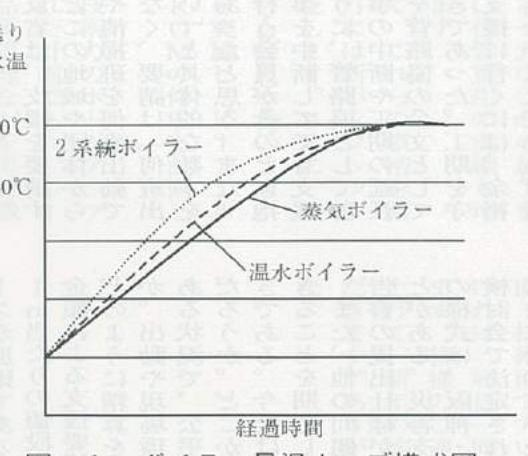


図-1 ボイラー昇温カーブ模式図

要となります。本件の収縮対策としては、樹脂の硬化収縮を低減できる低収縮樹脂を適用したうえ、さらに通常よりも周長を小さくしたプロテクトホースを用いることでラッパ状になろうとするライナー管口を極力既設管内径に近づけ、仮に大きな収縮が生じたとしても管口に無理な力が作用しないようにしました。

3・3 発進側立ち上げ部

発進側の立ち上げ部は二枚重ねしたØ1500用プロテクトホースでØ1500ライナーを絞り込んでいます。この処置を施すことによって、立ち上げの屈曲部から管口までの距離を従来以上に保つことが可能となり、結果として管口上部でのライナーが密着不良を起こす危険性が低減できます。

4 おわりに

以上のØ1500施工におけるさまざまな取り組みは、大小Ø径問わず、今後の施工に活かすことができる貴重な経験であつたと感じます。

本報が皆様の一助となれば幸いです。

3・2 収縮対策

ライナーは硬化と冷却の過程において必ずコンマ数%の収縮を伴います。大Ø径長尺ライニングの場合、この収縮をいかに対策するかが不具合を未然に防ぐ意味で重

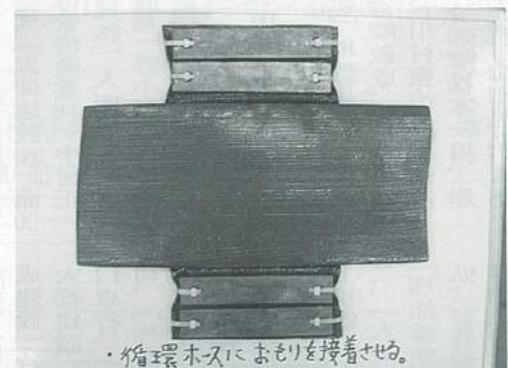


図-2 温水搅拌ホース

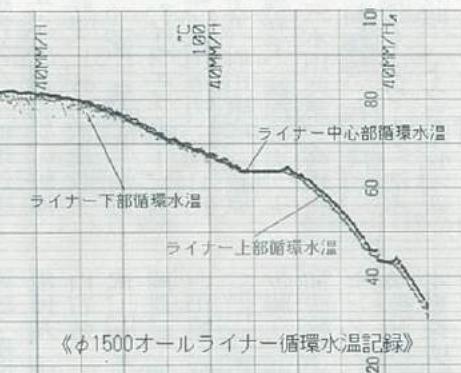


図-3 搅拌状態の循環水温度分布

一、統括監理者資格設定の背景
公共工事入札契約の適正化促進
に関する法律（以下「入札適化法」）
平成十二年法律第二二七号の施行
に伴い、「一括下請けの禁止」が
徹底されるようになりました（通
達・国総建第八十二号、平成十三
年三月三十日）。

一括下請けと見なされないため
には、元請負人が下請負人を管理
し、工事に「実質的に関与」する
必要があります。

この実質的に関与できる能力の
有無を判定するために「統括監理
者」の資格を設定しています。

協会の主催する統括監理者試験（研修・試験）を受験し合格した方を統括監理者として認定いたします。

※ 別途ご案内いたしますので、事務局へお申し込み下さい。

三、統括監理者資格取得のメリツト

現在各自治体では、不良不適格業者（工事に実質的に関与せず、一括下請けを常としている業者）を排除しようとして、一に示す法律の制定をし、業者の選別を行っています。統括監理資格を有して

統括監理者・施工技術管理者

研修・試験のご案内

地区	開催日	会場	研修会	試験
名古屋	4月中旬	小牧勤労センター		
東京	5月中～下旬	未定	10：00～14：30	14：40～16：00
北九州	12月下旬	未定		

7年度（第6回）施工技術管理者試験日時および会場

地区	開催日	会場	筆記試験	面接試験
東京	8月下旬	東京 島嶼会館	13:00 ~ 14:50	15:00 ~ 17:30

おれば、仮に工事の相当部分を下請けに発注しても、「工事に実質的に関与できる」能力を有しておりますので「一括下請けに違反しない」と言えます。

資格	説明	要件	研修等	頻度
指導員	オールライナー技術全般の知識と技術を持ち、統括監理者の指導、認定を行える者	統括監理者のうち、会員より推薦を受けた者	協会の主催する技術委員会で推薦を受け、原権利者の主催する試験等に合格した者	年一回 総会にて承認
統括監理者	オールライナーについて統括的に技術監理ができ、『施工管理に実質的に関与』できる者	施工技術管理者のうち公的資格（2級以上の土木工事、管工事施工管理技士）を有し、実質関与のできる者	申請のみ (公的資格受験の市販研修)	随時 東京にて開催 技術委員会および理事会にて承認
		施工技術研修を修了し、かつ、公的資格（2級以上の土木工事、管工事施工管理技士）を有し協会の主催する統括監理者研修を修了し実質関与のできる者	協会の主催する『統括監理者研修・試験』を受験し合格した者	年3回 技術委員会および理事会にて承認
施工技術管理者	オールライナー施工技術について、計画～施工まで独力で実施でき、品質管理が行える者	研修修了者のうち、充分な実施工体験を有し、会員より推薦を受けた者。他会員を応援する場合の必須資格である	協会の主催する『施工管理者研修・試験（推薦状の審査、机上試験、面接試験）』を受験し合格した者	年1回 東京にて開催、技術委員会および理事会にて承認
施工技術研修終了	オールライナー技術についての一般的知識がある者	協会に属する会員	協会の主催する『施工技術研修』のすべてのカリキュラムを終了した者	年3～4回 各地区にて開催

才川テイナリ工法 技術管理者試験（平成16年度） 統括監理者試験（平成15、16年度） 合格者の発表

平成16年度技術管理者試験と
成15年度 16年度の統括監理者試
験の合格者を掲載いたします。
認定証を交付された方は、客先
より求められた場合に提示できる
よう、工事中は常に携帯して下さ
い。

施工技術管理者試験
試験開催状況

試験開催状況		統括監理者試験				平成15年度、16年度			
		年度		開催日		会場			
年度	開催日	会場	開催日	会場	開催日	会場	開催日	会場	開催日
平成16年 12月22日	平成16年 8月27日	平成16年 6月18日	平成16年 6月18日	平成15年 12月13日	平成15年 11月29日	平成15年 11月22日	平成15年 11月22日	平成15年 東京芝弥生会館	平成15年 名古屋ホテルルブラン
北九州 ル小倉	東京第一ホテ ル	名古屋 王山	広島 ンドホテル	北九州 東京第一ホテ ル小倉	北九州 東京第一ホテ ル小倉	北九州 王山	北九州 東京第一ホテ ル小倉	北九州 東京第一ホテ ル小倉	北九州 東京第一ホテ ル小倉

16年度合格者（68名）

〔株環境開発公社〕阿部晃、〔株千成建設〕竹内真吾、小林郷市、〔株大都建設〕竹内潔、沖山達哉、山口卓行、〔株友鉄ランド〕木原真司、〔株前田組〕酒井行義、小村聰、〔丸伸企業株〕舛成茂義、〔三谷建設株〕永井孝尚、〔有薬師工業〕押越信幸、〔富士電機総設株〕真田幸公、〔京阪神道路サービス株〕上橋悟、〔大明道路管理株〕八田賢二、〔大清道路管理株〕辻一真、〔株加藤建設〕竹田倫也、小澤康弘、安井彰、〔東海管清興業株〕中田伸二、早川正洋、〔株石橋組〕塚田等、遠藤益則、荒川真人、〔永光建設株〕志家一衛、山口裕二、〔株

中村土木建設 五十嵐泰司 宮島尚利、四本松祐治、佐田雄一郎、原田友和、「株小出測量設計事務所」関野仁、「吉川建設」田中正一、倉島佳通、中山貴夫、鳴田亮、伊藤尚宏、「小原建設」田野尻英和、伊藤和広、石川光徳、「大伸建設」小林英孝、「加藤建設」稻木賀津男、「株ライフ・カワサキ」伊藤哲正、「菅清工業」名古屋支店丹羽久、「株日建総合建設」森田治義、藤田英樹、「株大鐵」團塚進己、「三浦国土建設」三浦宏之、三浦智之、「杉本組」杉本茂、杉本良三、塚前和久、「大和技建」中園昭、「株ナナセ」西尾秀記、「鍛冶建設」鍛冶隆、「有九興建設工業」石田峯子、「有中澄建設」中澄一博、中澄陽子、「大林建設」福田龍男、太田樹賢、「株九栄建設」原光一郎、「佐々木工業」秋月誠二、「河野雅弘」、「東海下水道整備株」竹原功、「トーエイ」牛村信一、「今津真治」田端浩之、「青木清掃」佐藤祐介



木下市長（後列中央）も
熱心に見学

(社)日本下水道管路管理業協会主催の「下水道管更生技術施工展」(二〇〇四佐賀)が、04年11月11日に佐賀市どん(どんすりー)広場で開催され、オールライナー工法を含め28業者・団体が管路更生に関する工法を出展しました。来場者数は、九州各地より自治体や民間の関係者などが集まり約一千人になりました。

わがオールライナー工法の実演は、幸いにも開会式の直後であつ

佐賀市長らに実演でアピール

九州支部
(管清工業株) 九州営業所長 鈴木英一

たため 来賓として出席いたたいたい
た佐賀市木下市長さん始め佐賀県
下水道課の松尾課長さん、ほか多く
の来場者の面前で実演すること
ができ、とてもよいPRになつた
と思います。

最後に、本出展に関しまして、
当協会の永野九州支部長さんを始
め野方菱光(株)さん(株)ナインステイ
ツさん、また本部事務局のご協力
をいただき施工展を無事終えるこ
とができたものと、感謝いたして
おります。



メンバーによる熱い議論が交された

(社)日本下水道管路管理業協会主催の「下水道管更生技術施工展」(二〇〇四佐賀)が、04年11月11日に佐賀市どん(どんすりー)広場で開催され、オールライナー工法を含め28業者・団体が管路更生に関する工法を出展しました。来場者数は、九州各地より自治体や民間の関係者などが集まり約一千人になりました。

わがオールライナー工法の実演は、幸いにも開会式の直後であつ

青年部活動報告 現状に満足せず 常に前

常に前進めざす

青年部事務局長
今津 真治
(トモエイ(株))

青年部事務局長 今津 真治（トーエイ（株））

平素は青年部活動に、ご協力とご理解をいただきまして、ありがとうございます。

5月の総会・勉強会に統いて、8月25日に東京の島嶼会館にて、勉強会を開催することができます。今年の青年部は、「こんなことができたらいいな!」「まさかでき

ないだろうな!」をカタチにすることを目標に活動してきました。

そこで計画された5月の勉強会の「下水道維持管理の最新情報」では、大きな反響をいただき、青年部員の学びたいという意識の高さ・強さを改めて感じました。

8月には、「管更生工法の比較」と

かと思いました。さうはこの勉強会では、他工法と比較しての優位点だけではなく、改善点や劣勢点も活発に議論することができます。また、青年部員として、材料供給メーカーの旭テック㈱からもメンバーが参加されていたため、現場で作業に携わる者の生の声を直接伝えることができました。『現場からの厳しい要求に対し、メモを一カ一が熱心に耳を傾けてメモを取り』このような熱い議論が交わされました。



実施工の状況を見学する参加者たち

04年10月14日、秋田県横手市において、秋田県内自治体16、岩手県内自治体1、コンサルタント会社1、オールライナー協会関係者を含めた、参加者数76名でのオール

ライナー工法説明会およびデモ施工を行いました。

仕上かりの良さ伝えられた

してのパートナーおよびサイドライナー工法、最後にオールライナー施工後の確認と厳しい日程でしたが、無事終了することができました。東北支部会員、協会関係者の皆様のご協力に、感謝いたしました。

中部支部 早瀬 良次
(株東邦工務店 取締役副社長)

参加者の中には、既設管を使用してのデモ施工を初めて見学される方も多く、施工後のオールライナーの仕上がり具合に、更生管の良さを感じていたように思われます。

サイドライナー工法の説明では、透明塩ビ管を使用していたためか、反転状況がよくわかりました。今後、デモ施工を行う場合にも使用したほうが良い印象を得られると思います。

デモ施工後に実施したアンケート調査の結果では、問題点として、①臭気対策、②説明会での他工法との比較、③工事費の説明などを詳しく説明して欲しい——との意見があげられており、オールライナー工法の高い技術力、施工性が他の工法より優れているというような説明も必要になつてくると思われます。

「下水道管更生技術施工展二〇〇四名古屋」が、04年10月8日に名古屋市水里応急給水センターにて開催されました。

前日の準備の時は土砂降りの雨で、搬入用のトラックが立ち往生する場面も見られました。当日はさらに雨が強くなり、見学者も出展者も雨を避けるのに労力をしました。そのような状況ではありましたが、オールライナー協会は、入り口近くの展示ブース、手際よく行われるデモンストレーションによつて、役所40名、コンサル21名、一般129名の計190名の来訪がありました。

ところで、私は鮎釣りをします。鮎釣りは、川相を見極めることができます。川相とは、川の状況や状態のことです。川相を観察しながら、鮎のいるポイントを探します。川相を見間違えるといつ釣りはできません。このことは、管更生事業も同じだと思います。管更

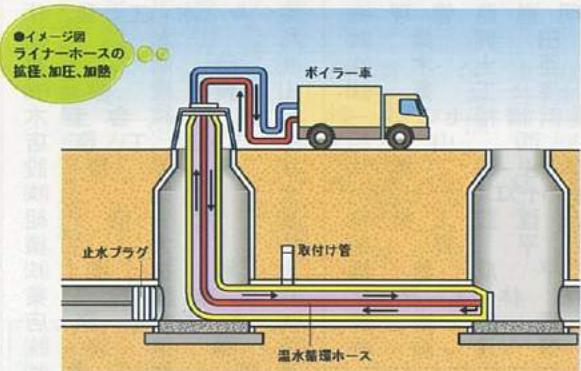


生事業に関する状況や状態を的確に捉えなくてはなりません。

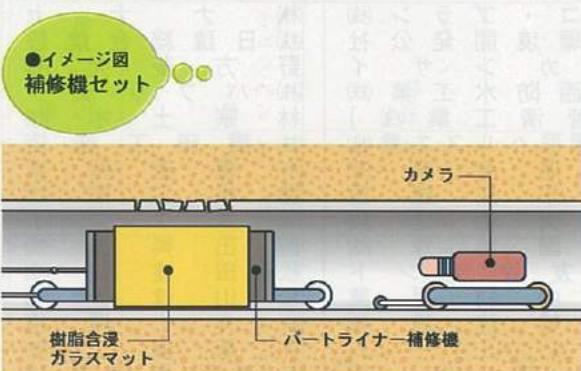
7つの工法が管きよを甦らせる

世界の最先端技術による管渠更生・補修システム

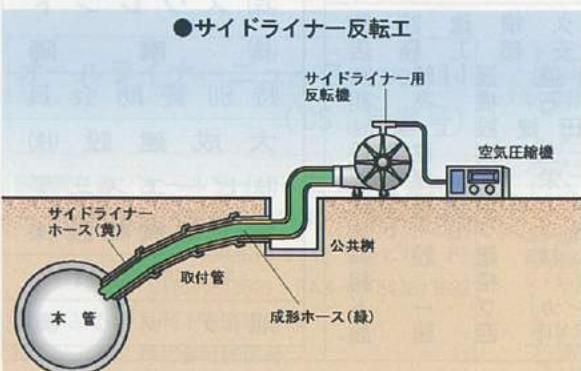
オールライナー工法（全面更生）
オールライナーZ工法（自立管）



パートライナー工法（部分補修）

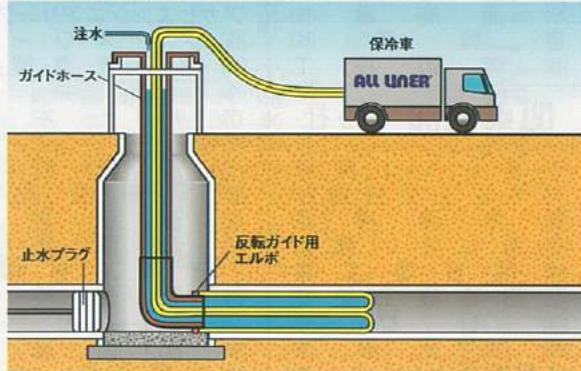


サイドライナー工法（取付管更生）

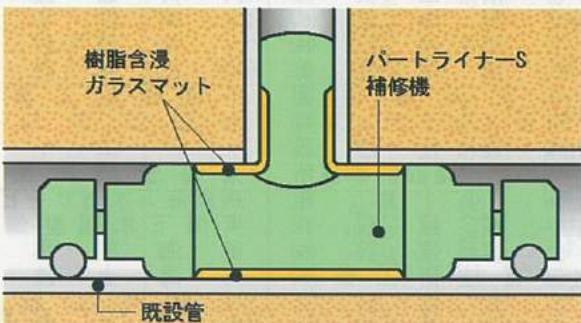


オールライナーi工法（全面更生）
ロングスパン・曲がりに対応

■イメージ図(反転工)



パートライナーS工法（取付管口補修）



サイドライナーVⅡ工法
(取付管本管接合部更生)

■イメージ図(加熱状況)

